

日本子どもの本学会 会長賞

日本児童文芸家協会 会長賞

「年をとるってことは……。」

大阪府大阪教育大学教育学部附属天王寺中学校

一年 野村 有希

年をとるってどういうことだろうか。年をとるっていう事は、だんだん死にむかうことだろうか。しかし、この本を読んで、年をとるという事は、すてきに年を重ねていく、すてきに大人になることではないのだろうかと思った。

私も、ネイティーンと同じ様に、父方の祖母と一緒に暮らしている。ただ、私の生まれる前からずっと、祖母は、この家にいるので、家族の一員としてはもちろんのこと、かなりの存在感を示している。また、私の生活にわりこんできては、しつこいぐらいに、

「宿題はしたか？」と聞いてくる。ちょうど、ライアンが、しつこくネイティーンに、

「あんた、アヒルを小屋に入れてやったかい。」と、聞いていた言葉と重なってしまう。それだけに、ライアンなんか迷子になって永久的に帰ってこなければいいのにと願っていたネイティーンが、本当に、祖母が迷子になって行方不明になった時、どうしようもない悲しみと後悔におそわれていく姿には、息をのんでしまった。

私も今、元氣な祖母と一緒にくらせてよかったと素直に思うことができた。年をとるってことは楽しみも苦しみも悲しみも味わいながら、それをのりこえて、大きな心と思いやりを持つことだろうか。いや、きっとそうだと思う。

(抜粋)

▶ ネイティーンと自分の気持ちを重ね合わせて考えていくことで、「生や老い」を語る文章に重みと現実味が加わりました。文頭と文末に工夫が見られ、読み手に強い印象を残す作品です。

「父と私」

兵庫県愛徳学園小学校

六年 大谷 愛

私は、どうも父とは、相性が悪いらしく二人きりになるとだまりこむか、すぐ口げんかになってしまう。その父と、ひよんなことから二人だけで、映画を見に行くことになった。車の中では、二人とも一言もしゃべらず、映画館に向かった。

思えば、私が小学校一年の時から、父は仕事のつごうで、大阪の祖母といっしょに暮らしていた。その父が、今度の地震で家に帰って来た。日時がたてばたつほど、私は父が苦手になっていくようだった。

父と二人きりで、映画を見てもおもしろくないのはわかっていたが、父が私に気をつかっているのが分かって、少し、気のどくな気持ちもあった。

映画が終わった時、私が父に、

「この映画、おもしろかったね。」

と声をかけると、うれしそうに、につこり父はほえんだ。私は、うれしくなった。父は、いつになくうちとけた様子で、母との出合いを私に話してくれた。

今日は私と二人で、映画を見て、食事をして、ビリヤードにつれていってくれるという。私は、母と話す時と同じように、友達のことやおけいこのことを早口でしゃべった。父も、いろんなことを、初めて私に話してくれた。あつという間に時間がすぎた。

父とまた、こんな時間が持てたらいいな!と思った。少しだけど、父が好きになった。これから、もつともつと父が好きになれそうな気がして、私の心の中が、ふわりと明るくなった。

(抜粋)

▶ 父に対する自分の気持ちを素直に書いた点が光ります。自分の気持ちに変化していくところをもう少し書き加えて、原稿用紙五枚をしっかりと使って書くと、なおよかったと思います。

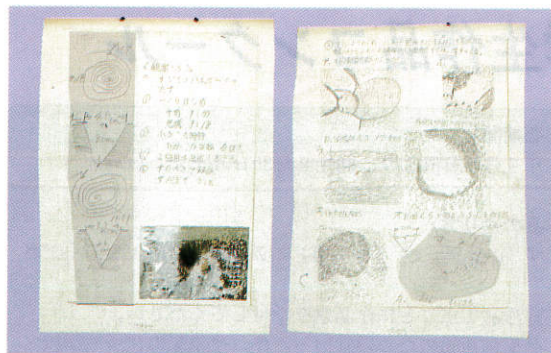
後援団体からの受賞作品

全国中学校理科 教育研究会 会長賞

「アリジゴクの研究」

千葉県市原市立国分寺台中学校
3年 柳池 剛

身近な生物でありながら、研究されることの少ないアリジゴクを3年間観察した力作です。対象への愛情がまさしく昆虫記の「ファーブル」を思い起こさせます。観察の仕方も熱心で、とくにウスバカゲロウになる過程を確認しながらの記録は高く評価されました。来年4年めの研究に続く未完の作品です。



中央出版(株) 特別賞

「メダカのひみつ」

千葉県市原市立国分寺台小学校
6年 柳池 英理

メダカの行動を「なわばりでの観察」「塩水でも生きられるか」「群れについて」「メダカの体の色は変わるか」など、10の観点からさまざまな諸条件のもとで調べています。調査が深く、科学的な視点に立った研究は小学生としてはとても優れたものがあります。「水温と呼吸数」「黒メダカとヒメダカのちがい」など今後の課題も提起し、次回の研究へと続いています。

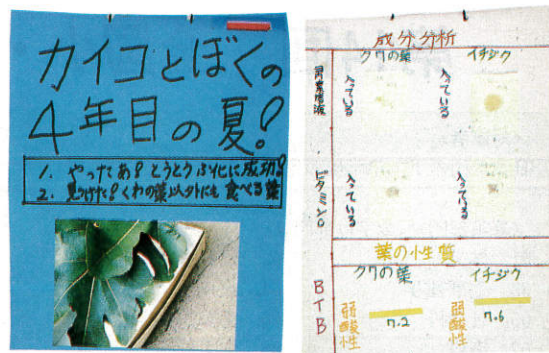


全国小学校理科 研究協議会 会長賞

「ぼくとカイコの最後の夏」

岐阜県坂祝町立坂祝小学校
6年 兼松 寛之

2年生から続けてきた5年間にわたるカイコ観察の集大成ともいえる大作です。愛情をもって飼育をし、毎年毎年の目的をもった観察と子供らしい発想とが評価されました。また、指導員や祖母からきいた話を研究にもちこんだことや、タイトルの文学的なユニークさも印象的です。



中央出版(株) 特別賞

「ごみ&リサイクル2」

東京都杉並区立高井戸小学校
4年 太田 裕之

自分にできるリサイクルは、どんなものがあるんだろう、という疑問から、この研究は始まりました。

身近なリサイクルショップを探検することに始まり、オーストラリアのごみ処理、さらに時代をさかのぼり江戸時代のごみ処理までよく調べています。4年生の授業でも扱うこのテーマを、さらに発展して幅広く研究した点が、高い評価を集めました。

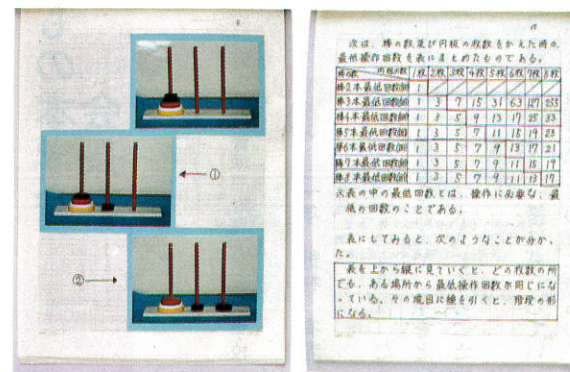


社団法人日本数学科 教育学会 会長賞

「ハノイの塔と二進数」

愛知県岡崎市立根石小学校
6年 天野 勢菜

本で知った「ハノイの塔」を実際に自分で作り、最低操作回数を調べています。3本の棒と5枚の円板で調べた後、棒や円板の数を増やしたらどうなるだろうと、研究を発展させているところに意欲がみられます。写真を使った説明がわかりやすく、表のまとめ方にも工夫がみられます。



日本社会科教育学会 会長賞

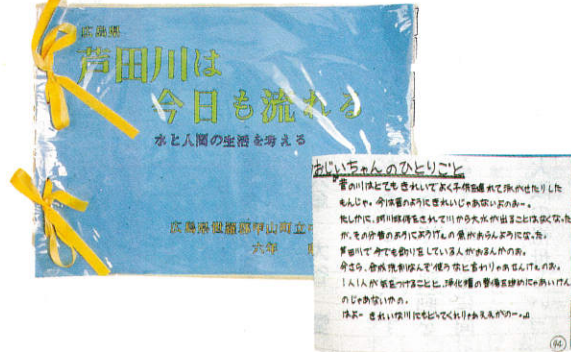
「広島県芦田川は今日も流れる」

～水と人間の生活を考える～
広島県甲山町立中央小学校
6年 東谷 由紀

東谷さんが登下校する道沿いを流れる芦田川。この川が地域の産業や人々の心と与える影響、川の歴史的役割、この二つに研究の視点を置いて調べています。

水源への道中、周りの景色や生き物にも目を向けながら、川に対する愛情が湧いてくる所は感動的です。

最後のおじいさんの一言に、地域の人々の気持ちが込められています。



美育文化協会 会長賞

「ざりがにとり」

兵庫県日高町立府中小学校
3年 平井 拓斗

ざりがにが、魚をつかまえた一瞬をズバリととらえた絶妙な作品です。

大きなざりがにの手の動き、するどい目、困り果てた魚の様子、そしてその瞬間を見守る自分。絵でなければ、描き出せない形や色による表現の素晴らしさを感じさせてくれました。



全国小学校生活科教育 研究協議会 会長賞

「——赤ちゃんはかせになりたいな——」

なきむし？赤ちゃん！
福島県保原町立保原小学校
1年 富田 麻木子

本当はとってもかわいいのに、すごい声で泣いてばかりの赤ちゃん。どうしてそんなに泣くんだろうという、生活の中から生まれた疑問をテーマにした、とても生活科らしい作品です。また、そんな赤ちゃんを見つめているうちに、麻木子さん自身も少しずつお姉さんらしくなっていく様子が分かり、本人の成長の記録にもなっています。

